

育に新聞を

毎週火曜掲載



4

り掛かりも早い。いつものようにぎつと全ページの出しや写真に目を通すと、選んだ記事を切り取り始めます。それまでおよそ4分間足らず、一般紙でNIEタイムを行うときの半分ほどの時間です。

校長2校目の小学校でNIEタイムを始めて2年ほどたったとき、ある新聞社から提案がありました。子ども向けの新聞でNIEタイムをやってみてほしいというもの。ルビをふってある新聞と出会うよい機会と思ひ、喜んで提案を受け入れました。

午前8時30分、全学年級で、こども新聞でのNIEタイムがスタート。記者とともに廊下から子どもたちの様子を見ました。低学年の子どもの多くは、こども新聞を1人1紙、手にしたことがなく、喜々としてペーシをめくり始めます。大人の新聞と違い、作業の取

実践

コラム

力試し

現場

特ダネ探し子どもなりに

んだ。見て、みんなの切り取っている記事、同じだよ」と。そう言われて教室を見渡すと、その子の言う通りです。隣のクラスも、高学年も。

こども新聞の記者は、慌てたように高学年の教室に入り、作業を終えた数人の子どもたちにインタビュを開始しました。子どもたちは異口同音に「漢字の読み仮名があるし、難しい熟語や言葉がなくて世の中のこと

とが分かりやすいです」と答えながら、「毎日読むのならこども新聞。NIEタイムなら大人の新聞が良いです」と付け加えました。

しばし、記者と私は目を合わせたまま無言。その後、うなずき合って納得。子どもたちはNIEタイムで自分なりの「特ダネ」を探しているのかもしれない。

(日本新聞協会NIEコーディネーター 関口修司)

次回回は11月5日掲載

せきぐち・しゅうじさん

1955年東京生まれ。東京学芸大を卒業後、東京都立小学校教員として勤務。その間(91~2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。



イラスト・本郷由紀子